

<http://www.zenrosai.coop/web-zenrosai>

# zenrosai

WEBZENROSAI 協力団体向けWEBマガジン  
誌面はWEBでも  
ご覧いただけます。

2017.JAN Vol.96



第32回(2016年)全労済「子ども絵画コンクール」

〈テーマ〉地球にやさしい「私たちの花と緑の街」〔審査員特別賞〕宮原 早紀さん(大阪府・堺市立南八下小学校・4年)

## 巻頭特別インタビュー

全労済 中世古 廣司 理事長

全労済中央推進会議 新議長に聞く

全労済中央推進会議 神保 政史 議長

## 産別インタビュー

日本私鉄労働組合総連合会〔私鉄総連〕

広域労組における共済制度推進の実例〔第26回〕

凸版印刷労働組合

## ファイナンシャル・プランニング講座

地震保障を極めよう

全労済中央推進会議NEWS

2016年度 第1回常任委員会

／ 第73回中央推進会議

訪問先のご近所グルメ

**全労済**

全国労働者共済生活協同組合連合会



## 目次 CONTENTS

### 巻頭特別インタビュー

全労済創立60周年の年。  
「Zetwork-60」を完遂し、次なる「新化」を目指す。  
全労済 中世古 廣司 理事長

4

### 全労済中央推進会議 新議長に聞く

個の時代だからこそ共助・共済を  
全労済中央推進会議 神保 政史 議長

8

### 産別インタビュー

日本私鉄労働組合総連合会〔私鉄総連〕

中央執行委員長 田野辺 耕一 さん / 中央執行委員 宮崎 功一 さん

10

### 全労済中央推進会議NEWS

2016年度 第1回常任委員会 / 第73回中央推進会議

14

### 広域労組における共済制度推進の実例〔第26回〕

凸版印刷労働組合

16

### ファイナンシャル・プランニング講座

地震保障を極めよう 生活経済研究所長野 事務局長 塚原 哲

20

### 訪問先のご近所グルメ

東京・芝 中国餐館 生駒軒 / 名古屋・熱田 焼肉 美奈登 (みなと)

22

### zenrosai Vol.96

読者アンケート&プレゼント

23



全労済 中央推進会議 議長  
神保 政史  
(じんば まさし)



全労済 理事長  
中世古 廣司  
(なかせこ ひろし)



全労済 中央推進会議 副議長  
操谷 孝一  
(くりたに こういち)



全労済 専務理事  
原 日出夫  
(はら ひでお)



全労済 中央推進会議 副議長  
清水 昭男  
(しみず あきお)



全労済 専務理事  
崎田 弘  
(さきた ひろし)



全労済 常務執行役員  
阿部田 克美  
(あべた かつみ)

あけまして  
おめでとうございます



# 全労済創立60周年の年。 「Zetwork-60」を完遂し、 次なる「新化」を目指す。

全労済創立60周年の年頭に当たり、中世古廣司理事長に  
その考え方と抱負を伺いました。

理念と信条は不変、  
3つの改革で内部を変える  
——「Zetwork-60」。

——明けておめでとうござい  
ます。全労済は今年創立60周年を迎え  
ます。この間の歴史を改めて振り返  
って全労済が変わったところと変わら  
ないところはありますか。

中世古 ● 皆さん、明けておめで  
とうございます。本年もよろしくお  
願います。

全労済は創立から50年目までは事  
業規模が右肩上がりに拡大していま  
したが、50年から60年までの10年間は  
極めて厳しい時代でした。というのも、  
事業規模が拡大できない中で事業を  
進めなければならなかったからです。

2014年から2017年までの  
「Zetwork-60（以下、Z-60）」で  
は、事業構造改革・組織改革・意識改  
革の「3つの改革」を行っています。

一方、変えてはならないのは、50周年  
のときにつくりあげた「全労済の理  
念」<sup>※1</sup>と「3つの信条」<sup>※2</sup>です。これらの理  
念と信条をこれからも変わらぬ価値  
観としていきながら、「3つの改革」で  
全労済の内部を変えていくという  
のが「Z-60」です。

戦後の厳しい状況下で、当時火災  
などに対しては、組合員のカンパで支  
援していたことから、大阪で労働者共  
済運動の機運が高まり、労働者の労  
働者による労働者のための火災共済  
事業が開始されました。前述の不変  
の理念と信条は、役職員の皆さんに  
きちんと浸透していると思います。

——地震や台風など自然災害の脅  
威が増えているように感じます。

中世古 ● 日本の各地で起こった災害  
に、全労済は真摯に対応してきまし  
た。60周年という節目に限らず、そう  
した証について、組合員・協力団体の  
皆さんと日常的に語り継いでいき  
たいと思います。

特にこの10年間、2011年の東

日本大震災や昨年の熊本地震など、  
大きな地震が数多く発生しました。  
また、台風、水害、突風、雪害などの  
自然災害も頻発しています。こうし  
た状況から、組合員・協力団体の皆さ  
んが大規模な自然災害に対してとて  
も敏感になっていると感じます。私  
たちもそれに備えた対応を、しっか  
りとやっていかなければなりません。

職域が原点の全労済だが、  
地域推進への施策も重要。

——全労済には職域と地域という  
2つの大きな柱があります。それぞ  
れをどのようにとらえていますか。

中世古 ● 契約件数割合では職域が  
64%で地域が36%です。また、契約口  
数割合では職域が45%、地域が55%  
となっています（2016年5月末  
現在）。最初は職域が100%だった  
ことを考えると、地域の割合がとて  
も伸びてきています。しかし、割合の  
分布だけではわからないことがあり



——地域についてはいかがですか。

まず。それは事業全体の規模が縮小  
しているということです。その中で職  
域の割合が低下しているのは、職域  
が伸び悩んでいるからにほかなりま  
せん。

一方、新規の加入実績では、職域が  
圧倒的に多くなっています。職域は  
やはり全労済の「原点」ですから、確  
実に守っていきたいと思っています。全労  
済を取り巻く状況が大変厳しい中で  
職域をどう伸ばしていくかが、「Z-  
60」のテーマでもあります。

中世古 ● 1983年に「こくみん共  
済」が事業開始され、全労済は大きく  
変わったと言われました。良い意味  
では、この共済制度で地域に打って  
出たことが挙げられる一方で、量の拡  
大を追い求めたあまり、ややもする  
と質の充実が疎かになった部分も  
あったのではないかと感じています。  
その結果「こくみん共済」は現在大変  
厳しい局面にあります。

職域には労働組合をはじめとした

事業構造・組織・意識改革に  
全力を挙げて、  
「Z-60」を完遂する。

——2017年度が最終年度とな  
る「Z-60」の完遂に向けて、どんなこ  
とを進めていくべきでしょうか。

協力団体という組織があります。そ  
こに全労済の「推進部隊」が日々足を  
運び、委員長・書記長などと直接に接  
し、対話を行っています。いわば地に  
足の着いた「地上戦」です。しかし、地  
域には「共済ショップ」や「ぐりんぱ  
う」という限られた窓口・拠点しかあ  
りません。そこでチラシやテレビCM  
などの「空中戦」に頼らざるを得なく  
なります。空中戦には膨大な広告  
費がかかりますが、その効果は必ず  
しも高くはありません。

窓口・拠点を増やすという意味で  
は、異なる拠点を持つ協同組合など  
と協同することも考えられます。

推進を強化する各種の施策を講じ、  
その効果を発揮させるべく、PDCA  
サイクル<sup>※3</sup>を実行するマネジメントサ  
イクルを導入し、可視化・ビジュアル  
化を取り入れました。「Z-60」の各実  
行課題を進捗管理する「Z-60推進室」  
で、1カ月ごとに現況データを分析し  
ています。これを全役職員と共有する  
とともに、PDCAサイクルを確実に  
実行していきたいと思っています。

また、組織改革については、「統括  
本部制」が様々な取り組みに強化を  
もたらし、2018年度以降の新た  
な中期経営政策に大きな効果を発揮  
してくれるものと思います。

一方、私はよく3つの「しんか」  
という言い方をしますが、それは  
2015年度が「深化」、2016年度  
が「進化」、そして来たる2017年度  
が「Z-60」の真価<sup>※4</sup>です。さらに、その  
次の2018年度以降の新たな  
「Zetwork」、すなわち「New  
Zetwork」では、良い意味で新し  
く化する「新化」、つまり「新しく進化  
する」ということになります。

現在、全国労働者共済生活協同組  
合連合会を略して「全労済」と呼んで  
いますが、これは一つのブランドでも  
あります。ブランドとは、「何を」組合  
員・協力団体の皆さんにわかつてほ  
しいのかということです。「何を」伝え  
たいのかではなくて、「何を」わかつて  
ほしいのか。それは、例えば職域であ

※3 PDCAサイクル 事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）

※1 全労済の理念 「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」（組合員の皆さんと共有すべき全労済の変わらぬ価値観です。）

※2 3つの信条 「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」（理念実現に向けた全労済役職員の行動規範です。）





れば「住まいる共済」や「団体生命共済」、また地域であれば「こくみん共済」という個別の共済制度を訴求するだけではできないことです。

あらゆる媒体を通じて、全労済とは「何か」というブランドをきちんとお伝えし、わかっていただく。労働組合をはじめとした協力団体の皆さんを含め、全国民に向けて「全労済とはこういう組織です」ということをアピールしていくことが必要ではないかと考えています。

このことは、共済と保険はどう違うのかということをおわかっていただくこともあります。テレビCMだけでは、一般労働者・消費者の皆さんには

**役職員一人ひとりが、  
全労済ブランドの  
伝道師になる。**

——組合員・協力団体の皆さんに向けたブランドの発信についてどのよう  
に考えていますか。

中世古 ●目に見えて形がわかる商品もありますが、私たちが組合員・協力団体の皆さんにお役に立とうとしている仕事はそうではありません。「共済」は、目には見えないもののなので、この「共済」を取り扱う「人」で価値が決まると言っても過言ではありません。

これまでは「全労済」というフレーズが一般労働者・消費者の皆さんの意識に染み込むように、テレビCMをどんどん流してきました。テレビCMだけでなく新聞や雑誌など、ありとあらゆる媒体を用いて、全労済の共済制度は良いもの、という刷り込みを行ってきたのです。

「全労済」は、名前の知られた事業団体・生活協同組合であり、したがって全労済の「こくみん共済」や「住まいる共済」は良いものである、という図式です。それがブランド力だと考えていました。

ところが、時代は大きく変わり、インターネットやスマートフォンが普及し、テレビCMの影響力はかつての6割程度に落ちました。それに代わって口コ

共済と保険の違いがわかりません。共済とは「二人は万人のために、万人は一人のために」という理念を価値とした「たすけあい」を原点にしたもの」というメッセージを発信していく必要があると思います。困っている人を一人でも少なくするために「それが共済なのです」。

「共済」という言葉は日本では今ひとつ根付いていない感もありますが、外国人には「kyosai」は発音しやすく、世界用語になりつつあります。

満60周年を迎える2017年9月29日を起点として、その前後の期間を「創立60周年ゾーン」と銘打ち、さまざまな重点キャンペーンを展開しながら広範な取り組みにしていきたいと思っています。その中で、「たすけあいの精神」にもとづいた全労済」というブランドを発信していきたいと考えます。

事業の回復と常に健全な事業基盤の確立を果たすとともに、60年の歴史を糧に労働者福祉運動の原点に立ち返り、全労済の理念の実現を目指して、「Z160」をぜひ完遂させたいと思います。

**労働組合の皆さんは、  
利用者であり、出資者であり、  
経営者である。**

——全労済中央推進会議の構成組織などの労働組合の方々に向けて、  
60周年のメッセージをお願いします。

ミが多大な影響力を持つようになったのです。いま消費者の皆さんは何を頼りに物を買うかというと、家族、友人、ブログ、SNSなどでの評判です。テレビCMより口コミのほうが購買意欲をそそるようになったのです。

こうした今日の状況について、私はかつていた職場の入社式での役員挨拶のことを思い出します。その役員は新入社員に対して、「君たちに3つのお願いがある」と言いました。1つ目は、良い会社に入ったと思ってもらいたいこと。2つ目は、そう思ったら今日家に帰って、良い会社に入ったと両親や家族に言ってもらいたいということ。3つ目は、それを聞いた両親・家族から隣近所、親戚縁者、そしてあらゆる知人に「あの会社は良い会社だ」と言ってもらいたい、という話です。

つまり、社員がブランドの伝道師になるということです。社員が良い会社に入った」と思ってくれたなら、それを口コミで広げていくということなのです。

全労済においても、役職員一人ひとりが全労済ブランドの伝道師となるような組織であってほしいと思います。

**全労済の  
新しいブランド価値を確立し、  
たすけあいの成果を明示する。**

——今後も全労済が組合員・協

中世古 ●かつて、全労済では、中央推進会議の皆さんは全労済運動を担う当事者であると同時に、利用者であり、出資者であり、経営者であると言っていました。私自身、今日でもその通りだと思っていますが、それがいつの間にか希薄化してしまっているのではないかと感じています。そのことを、私たちは中央推進会議の構成組織をはじめとする労働組合の皆さんに対して、労働者自主福祉運動を担う当事者であることを改めてご理解いただくとともに、そのことが目に見える形で運動をすすめていきたいと思っています。

「Z160」でも共感と信頼、そして参加をもつて、より魅力的な「保障の生協」をめざすことが掲げられています。中央推進会議に参画いただいている皆さんの輪を、どんどん広げていただきたいと思っています。

——全労済の役職員に向けてのメ  
ッセージをお願いします。

中世古 ●意識改革が進んでいるかどうかは数字では評価できません。意識改革の目的と手段を取り違えず、組合員・協力団体の皆さんに向けたブランド発信と、全労済の役職員に向けたブランド伝達、すなわち意識改革とを、同時にすすめていかなければなりません。

体のお役に立ち続けるためには、ど  
うあるべきかをお聞かせください。

中世古 ●全労済の新しいブランド価値を確立することだと考えています。役職員にとっては求心力があり、同時に社会に対しては発信力のあるブランドを創りあげるのがです。

それは、単に共済に加入してもらって、事業を回復できたらそれでよし、というものではありません。自然災害時の共済金などのお支払い金額の多寡でもありません。組合員・協力団体の皆さんにたすけあいの運動に参画していただいた結果、何ができたか、このことをきちんと報告すること。それと同時に、大規模自然災害に対する共済金などのお支払い金額だけでなく、組合員・協力団体の皆さん、そして社会の皆さんにお役立ちができたことを目に見える形で示すことだと思っています。

たすけあいの精神に則って、全労済の共済に加入していただいた皆さんに「自分たちがたすけあいの一助になっている」という事実をきちんと明示し、その価値を共有しあえるようにしていく必要があります。どんな方法でやるかは、いま知恵を絞っているところです。

全労済は社会に対してこういう形で役立っています、ということがこれまではあまり見えていませんでした。

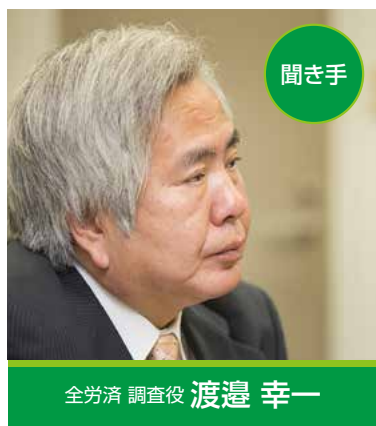
「Z160」は全労済内部の改革です。本当に改革が可能なかと危惧する人もいるでしょう。しかし、その危惧を払拭する出来事がありました。2016年8月30日の第123回通常総会で第3号議案（「Z160」組織改革実行プログラム承認の件）が承認されたとき、私は少なからず感動を覚えました。この二年あまりの間、各事業本部に向かい様々な議論を積み重ね、その結果全会一致で可決できたのです。同時に、一年かけてきちんと手順を踏んできたからこそ、組織改革実行プログラムについて予定通りに総会での確認が実現できたということでもあります。この経過を役職員の皆さんが見て感じるところがあったとすれば、そこにも意識改革が存在したはずです。

全労済における内部改革である「Z160」をさらに外部改革に発展させるのが2018年度以降の「New Zet work」となります。この内部と外部の両改革がしっかりとかみ合うことで、一大改革が実現すると確信しています。言い換えると、「Z160」の延長線上に次の「New Zet work」があります。これだけの時間をかけるのですから、組合員・協力団体の皆さんやそれ以外の方々からも「全労済は大きく変わった」と言ってもらえるようになりたいと思います。

それを明示していこう、ということですから、現在よりさらに事業を通じて、社会に貢献することも考えています。いずれについても、2018年度以降の次期中期経営政策（New Zet work）の中で戦略を練っていききたいと思っています。

——最後に今年の抱負をお聞かせ  
ください。

中世古 ●創立60周年は人であれば還暦です。前例を排して大胆に生まれ変わらなければならないと思っています。単なる通過点で終わらせず、数年後に創立60周年を振り返ったときに、レガシー（遺産）になるようなものを残したい。そして、組合員・協力団体の皆さんや全労済の役職員、いづれの皆さんにとっても、全労済が「新生・全労済」として生まれ変わるための一年間になりたいと思います。



聞き手

全労済 調査役 渡邊 幸一



# 全労済中央推進会議 新議長に聞く

## 個の時代だからこそ共助・共済を



**全労済中央推進会議 議長**  
**神保 政史**(じんぼ まさし)さん  
 電機連合 書記長〔出身労組:三菱電機労働組合〕

**プロフィール** ●2000年～2001年 三菱電機労働組合本社支部 委員長  
 2002年 三菱電機関連労働組合連合会 事務局局長  
 2003年～2007年 三菱電機労働組合 中央書記長  
 2008年～2009年 三菱電機労働組合 中央執行委員長  
 2010年～2013年 三菱電機関連労働組合連合会 会長  
 三菱電機労働組合 中央執行委員長  
 2014年～2015年 電機連合 副中央執行委員長  
 2016年～ 電機連合 書記長

**出身地** ●東京都  
**歴** ●三菱電機株式会社電力事業部(発電プラントの営業・業務など)  
**信条** ●「継続は力なり」(高校時代のバレー部の恩師から頂いた言葉)  
**趣味** ●読書・スポーツ

全労済中央推進会議の新議長に、神保政史さんが就任されました。共済運動における現在の課題、構成組織や全労済に望むこと、全労済中央推進会議のこれからについてお話を伺いました。

雇用と技術・技能を守ることに尽力  
 —これまでの労働運動を振り返って、印象に残っている出来事やご苦労されたことをお聞かせください。

神保 ●私の出身組合は三菱電機労働組合です。三菱電機は1998年から2004年頃まで企業存続の危機といわれたほど、経営が厳しくなりました。その時、組合役員だった私にとって、会社の施策に対する組合としての取り組みが一番印象に残っており、私の労働運動の原点にもなっています。

当時、会社では構造改革が進められ、社内に限らず他社とも事業再編が行われて、組合員の異動がかなりありました。三菱電機労使は労使協議を重んじてきており、新しい事業の必要性、妥当性、そして将来どうなるか、それに伴って組合員の労働条件がどうなるか、などを労使で協議します。その一方で、労働組合として重視してきた異動の対象となる組合員との対話があり、これらが同時並行的に行われたので、当時は相当大変だった思い出があります。

事業再編には人的施策を伴うものもあります。労働諸条件に影響するものもあります。労使協議の内容を組合員にどう伝えて理解してもらうか、その合意形成にできるだけ多く

場で、各構成組織の皆さんに何を望まれますか。また、全労済に望むことはありますか。

神保 ●共済運動と労働運動はそのベースが同じだということを改めて考えることが、今の課題は何かということにも通じると思います。全労済の課題は、おそらく労働組合にとっても課題であり、「共済とは何か」をもう一度原点に立ち戻って、全員で共有し直し、共有しあう必要があると感じます。

共済は保険ではありません。共済に加入した組合員がお互いにたすけあう精神を礎とし、組合員の暮らしの安全・安心や生活の質の向上を目指しているものです。組織を成長させていくためには契約高や口数を上げていかなければなりません、手段が目的化し、先行していつては問題です。共済運動の原点は何だったのか、改めてみんなでベクトルを合わせる事が大事だと思います。それを組合役員が認識し、たすけあいの精神が込められた共済をツールにして取り組んでいけば、組合役員の成長にもつながり、組織が強固になっていくと思います。

全労済に望むことは、同じ想いを共有してほしいと思います。ややもすると、全労済の皆さんは気を使い過ぎることがあると感じます。まずは

の労力と時間をかけるように努めました。その際、組合が一番大事にしたのは「雇用を守る」ということです。事業再編によって100人から50人に縮小せざるを得ないという場合、職場から離れることになる50人のこれまでの技術・技能をどう生かすか、いかに他の事業にシフトするか、労使双方で知恵を絞りました。

また、雇用を守るために賃金カットをするのでなく、無給休暇という仕組みを作りました。これは組合員一人一人の労働価値を下げないためにと考えた施策です。組合員との対話の中では厳しい意見もありましたが、雇用、そして技術・技能を守ることを大切にしてきたことは今でも良かったと思っています。

共済で可処分所得向上めざす  
 —支部・単組・労連時代における共済とのかかわりについてお聞かせください。

神保 ●三菱電機労働組合では、組合として共済を立ち上げています。これは、景気が低迷するなかで、組合員の可処分所得をいかに向上させるかを考えて作った共済で、1998年にスタートしました。共済の維持、発展には多くの組合員に利用していただく必要があります。しかし、組合員

お互いに胸襟を開いて、想いを共有しあって取り組むことが大事です。全労済と労働組合は、業者とお客様という関係ではなく、労働者自主福祉運動を担う当事者であり、運命共同体として取り組んでいかなければならないと思います。

ネットワークをより強固に

—最後に、全労済中央推進会議のこれからについて、議長の決意をお聞かせください。

神保 ●各構成組織は生い立ちなど、色々な事情も異なるので、想いも異なります。そうした中であっても、いかに想いを共有させていくことができるのか、努力を惜しまずにやっていきたいと思っています。

全労済運動の取り組みを頑張っている構成組織には、さらに全労済中央推進会議全体を引っ張っていくんだという想いで進めていただきたいと思っています。それには、共済運動の原点を共有しあうことが大事だと思います。構成組織同士および全労済との連携等、ネットワークをより強固にして活動を進めていくことに力を尽くしたいと思っています。

に制度の良さや背景などを説明しても、なかなか理解してもらえず、加入に結びつきませんでした。そこで、まず組合役員が保障設計を勉強し、全労済にも協力してもらい、保障の相談会を実施しました。組合員から、加入している保険証券と委任状を提出してもらい、組合役員が保険会社の窓口まで出向き、生涯保険料の総額などを算出してもらいました。そして組合員に独自共済の優位性などを理解・納得してもらったうえで、加入してもらうことができました。苦労はしましたが、達成感を味わうことができました。

この共済運動の取り組みにより、全組合員に直接アプローチする機会が増え、信頼関係を築くことができました。組合員からも「加入して良かった」という声が聞かれ、現在でも加入率が高いので、この共済制度を導入してよかったと思っています。しかし、課題がないわけではありません。年齢構成が変化していること、その後、様々な保障商品が出て、以前と比べると独自共済の優位性が見出しにくくなっていることなどがあります。組合員の可処分所得を向上させ続けるために、こういう環境下でもこの共済制度をしつかり守っていか

なくてはならないと思っています。

改めて「共済とは何か」をみんなで共有すべき

—労働者自主福祉運動の一つである共済について、現在、どのような課題があるとお考えですか。

神保 ●昨今、行動様式が「集団」から「個」に変わってきています。「みんなが集まって仲間意識を」ということがなかなか通じなくなりつつある時代だと思うので、対個人への丁寧さが求められると感じています。固定概念にとらわれず、その時代に合わせて考え方や手法も変えていかなければなりません。

「集団」から「個」の時代が変わってきたということは、「共助」や「共済」という考え方にも影響してきていると思います。

しかし、「個」が行き過ぎたために、色々な不安要素を多くの人達が抱えるようになってきました。育児や介護で、独りで悩みを抱えてしまい、不幸な事件も起こっています。今こそ「共助の精神」や「共済の理念」が必要とされ、改めてその価値を見つめ直す時代に入っている、と認識することが極めて重要ではないかと思っています。

—全労済中央推進会議 議長



# 産別インタビュー

日本私鉄労働組合総連合会  
中央執行委員長に聞く

日本私鉄労働組合総連合会（私鉄総連）

中央執行委員長

田野辺 耕一さん

中央執行委員 宮崎 功一さん

## 生活と雇用、労働条件の維持・改善と平和な社会へ 統一団体生命共済発足で益々力強く進む



——日本私鉄労働組合総連合会とはどのような組織ですか。

田野辺 ●日本私鉄労働組合総連合会（私鉄総連）は、1947年に、全国の民営鉄道・バス関係労働組合の連合体として結成された産業別組合です。私鉄・バスだけでなく、ハイヤー・タクシー、その他様々な職種の皆さんと手を携えて活動しており、現在、全国236組合、約10万人の組合員が加盟しています。結成以来、今日までの70年近い歴史の中で、生活と雇用、労働条件の維持・改善と平和な社会を築く運動を一貫して進めてきました。組合員の求める課題を現実にするためには、一組合だけの運動にとどまっては難しいとの思いから、北は北海道、南は九州・沖縄までのネット

ワークを作り、共有し分かちあいがら、力を合わせて、多くの課題を克服してきました。

——田野辺さんは昨年8月の定期大会で、15代目の中央執行委員長に選出されたんですね。自己紹介をしていただけますでしょうか。

田野辺 ●私は1960年12月生まれです。60年といえば安保闘争の年でありまして、そのせいか自分の中では特に、平和に対して強い想いを持っています。

1979年に東武鉄道株式会社に入社し、まず駅員として池袋駅に配属されました。その後、20歳で電車運転士試験に合格し、40歳で組合の専従役員になるまでの20年間、運転士



日本私鉄労働組合総連合会 中央執行委員長

田野辺 耕一（たのべ こういち）さん

プロフィール 1979年 東武鉄道株式会社 入社  
2000年 東武交通労働組合栃木支部 執行委員  
2008年 東武鉄道労働組合本部 副執行委員長  
2010年 日本私鉄労働組合総連合会 中央執行委員  
2012年 日本私鉄労働組合総連合会 書記長  
2016年 日本私鉄労働組合総連合会 中央執行委員長

出身地 ● 栃木県鹿沼市 趣味 ● 映画鑑賞

をしていました。

組合については、職場にいた頃から青年部などの活動に参加していました。東武鉄道労働組合の栃木支部で執行委員と支部長をやり、組合本部で副委員長を2年。その後、私鉄総連へ派遣され、組織教宣局長、書記長を経て、昨年の夏、中央執行委員長に選出されました。

——全労済をご担当されている宮崎さんも、自己紹介をお願いできますか。

宮崎 ●私は1967年5月生まれです。1986年に、関西の近畿日本鉄道株式会社に入社しました。駅業務一筋で、2003年に助役登用試験に合格して助役を拝命しました。

2008年に近畿日本鉄道労働

——お二人の共済に対する想いをお聞かせください。

組合の専従となり、執行委員として組織部長、庶務財政部長を務めました。その後、私鉄関西地方連合会へ派遣され、庶務財政部長兼調査部長として2期4年間務めました。昨年の定期大会で私鉄総連中央執行委員に選出たまわり、政治政策局長、鉄軌対策部長を拝命し、併せて全労済担当も務めています。

田野辺 ●私は運転士を20年間やってきたので、時間に非常に敏感です。未だに、しゅっちゅう時計を確認する習慣があるほどです。しかし、労働組合の仕事は時間よりも中身が大事です。「安心して暮らしていける社会をめざしていく」という大きなテーマが

ある一方で、足もとに目を向ければ、組合員の安定した生活と雇用を守っていかねばなりません。特に最近の春闘ではなかなか大幅な賃上げができず、厳しい状況があります。少子高齢化、人口減少など、産業を取り巻く環境も厳しく、取り組むべき課題は山積しております。

そうした中で、全労済の団体生命共済、火災共済、マイカー共済などの制度は、組合員の生活と雇用を守る手段の一つとして、非常に重要だと思っています。可処分所得が減っている時代にもかかわらず、低廉な掛金で充実した保障を得られることは素晴らしいことです。労働組合として、多くの組合員にそういう制度に加入していただけるよう、全労済の皆さんと一体となり取り組んでまいりたいと思っています。

私の出身単組である東武鉄道労働組合では、全労済・労金はある意味セットになっていて、職場に配属された段階で、自然に入るものだという慣例が、私が入社した36年ぐらい前には既にありました。ですから、団体生命共済の全員一律加入制度も、最初は20口から30口、そこから50口に引き上げて、と自然な流れで取り組みをすすめてきました。この全員一律加入制度のよさについても、長い年月の中で、実感してきました。

その一方で、団体生命共済以外の制度、とりわけマイカー共済については課題を感じています。組合としては、まず共済への入口として、団体生命共済に加入してもらい、そこから火災・自然災害共済は夏に説明会を開いて加入してもらうといった取り組み方をしています。ところがマイカー共済だけは、うまくいきません。更新時期が一定している他の共済と違い、統一的に取り組めないからです。私も支部にいた時に、全労済の担当をしたことがあるので実感として分かるのですが、マイカー共済の取り組みは今大変だと思っています。

宮崎 ●私は現在、各加盟組合・構成組織に向けて統一団体生命共済に結集していただけるよう取り組んでいます。導入がなかなか厳しい各加盟組合・構成組織もある中で、私鉄総連として、なんとか結集していただけるよう、引き続き努力してまいりたいと思っています。

——私鉄総連は、この1月に、統一団体生命共済を発足されますが、やはり組合員の皆さんから、強い要望があったのでしょうか。

田野辺 ●そうですね、団体生命共済の統一制度は、私鉄総連の取り組みの



日本私鉄労働組合総連合会 中央執行委員

宮崎 功一（みやざき こういち）さん

プロフィール

1986年 近畿日本鉄道株式会社 入社  
2008年 近畿日本鉄道労働組合 執行委員  
2012年 日本私鉄労働組合関西地方連合会 執行委員  
2016年 日本私鉄労働組合総連合会 中央執行委員

出身地 ● 奈良県大和高田市 趣味 ● 釣り



中でも非常に重要な位置にありますので、準備期間も含めて約2年間に渡り、議論を積み重ねてきました。

特に多かったのは、「是非ともこの統一制度を早く作ってほしい」という地方からの要望でした。

というのも昨今、全国的に、自然災害が多発しており、我々の組合員でも被災された方が少なからずおられるからです。そういう中で、「全労済の共済に入っていて本当に良かった」・「たすかった」という声が、実際数多くあがってきています。

統一制度を発足させるからには、都市部も地方も、この制度の良さを、充分理解してもらい、こういう制度があつて良かった、”こういう制度を持つてゐる私鉄総連の組合員で良かった”と感じていただけるようなものに是非ともしたいと思います。

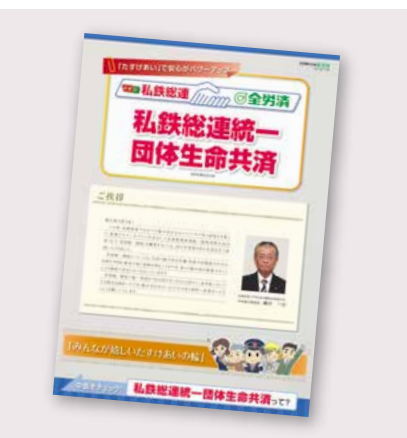
——ここに至るまでは、様々な苦勞もあつたのではないですか。

田野辺 ● 私鉄総連には9つの地連があるのですが、地連によつて取り組み方の歴史があり、違いもありますので、そこは苦労しましたね。

保障内容を1つに合わせるの  
はなかなか大変で、会議でも、  
全員一律加入の口数や掛金について、  
実に色々な意見がありました。



私鉄総連の皆さん



私鉄総連「統一団体生命共済 パンフレット」

た、個々の組合員の理解なくしては、統一制度に結集していただくことは厳しいので、それぞれの加盟組合・構成組織で会議を開催したり、地連が会議を開催したりして、時間をかけて理解の浸透をすすめてきました。特に加盟組合・構成組織によつては、現行の取り組み内容を刷新しなければならぬケースもありましたので、そこへの理解を得るためにも時間を要しました。

しかしながら、団体生命共済という制度の良さについては、どの組合員もそして組合役員も理解してくれていますので、私鉄総連として最終的には、名前の通りの統一制度に仕上げるべきではないと思っています。

宮崎●私は関西地連で4年間、全労済の担当をしてきました。かつて、関西地連においても、各単組へ全員一律加入制度の取り組み提案があったと聞いております。しかしながら、当時は関西地連としてまとめることはできなかつた……という経緯があります。しかし、団体生命共済については、有利な制度と認識していることから、地連のスケールメリットを活かした、関西地連独自の統一団体生命共済を諸先輩方が築き上げ、現在も引き継がれています。

そのうえで、この間の私鉄総連統一

も、すぐに駆けつけてくれたという話を聞いています。創立60年の節目を迎えた今後も、こうした姿勢を続けていけば、加入者も自然と増えていくはずだと確信しています。



私鉄総連本部〔東京・港区高輪〕



## 事務所風景

制度導入に向けた議論において、産別のスケールメリットを保障内容や掛金に活かした優れた制度であるとの認識は共通しているものの、導入条件としている全員一律加入30口という部分がハードルになっている組合もあるという印象でした。

私鉄総連で担当となつてからは、各職場へオルグに入り、組合員全員と対話して取り組んだある組合から「100%ではないものの、60〜70%の組合員が理解し、納得してもらえているが、これで導入はできないのか？」と尋ねられたことがあります。やはり統一制度の入口は全員100%という部分がありましたので、「申し訳ありませんが、100%をめざしてください」と返答したのですが、本当に申し訳なく、断腸の思いでした。というのも共に取り組みをしていた組合でしたので、その苦勞も承知していたからです。

とはいえ、やはり私鉄総連の立場としては、ここはしっかりと守って行かなければならないので、今後ともそういった部分を踏まえながら、各加盟組合・構成組織においては、全員一律加入に向けて取り組んでいただかなくてはならないと思っています。

——全労済の職員はどのように、組合員の皆さんに共済への理解を深め

田野辺 ◆あとは自賠償共済の課題を解決してほしいですね。多くの組合員が車を持っていますから、需要は高いと思います。生命や医療保障の各共済も大切ですが、自賠償共済への加入も是非推進できればと思います。

ある組合では、組合役員が、自動車で通勤する組合員の自賠償共済の把握に努め、車検切れの時期が近付いたら組合員に声をかける取り組みをしていると聞いたことがあります。こういう取り組みやアイデアを、もつと共有できるようにしてもいいですね。

——では、最後に私鉄総連としての、新年に向けた決意をお話しいただけますか。

田野辺● 昨今、日本だけでなく、世界中で、思いもよらなかったことが起きています。2016年には、EUから英国が離脱することが決まり、アメリカ大統領選挙では、世界の予想に反してトランプ氏が選出されました。トランプ氏がアメリカ大統領に就任することの影響は今後、はかり知れません。一方で、日本国内の政治は、本当に国民のためになっているかという疑問もあります。政治、経済、社会の仕組みは一直線につながっており、日本の将来のために、我々の産業が直面する課題も今後大きくなっ

ていただくためのお手伝いをさせていただきますか。

田野辺●地連の大会では必ず、全労済の各都道府県本部の本部長を来賓に招き、挨拶してもらっています。また、各加盟組合・構成組織も地元の支所から、支所長と担当の職員に来てもらい、お話ししてもらっていますね。

——全労済は今年、創立60年の節目の年を迎えます。それに向けて、ご要望などありましたらお聞かせください。

田野辺「全労済といえば」〇〇“というように、関連するイメージや言葉がパツと浮かぶようになるというです。たとえば「全労済といえば」たすけあい“みんなが加入することは、自分をたすけるだけでなく、仲間をたすけることにもなる」というイメージで、創立60年を迎えたこれからも、働く人たちを中心に、密接にたすけあえる全労済になってほしいと思います。

たすけあいの精神は、本当に重要です。昨今、自分さえ良ければという、個の時代になっていますが、こうした時代だからこそ、お互いにたすけあう精神を、培っていったほしいと思います。

ていくと思われます。

その中で我々私鉄総連は、政策を重視し、産業にかかわる政策、そして文化・暮らしにかかわる政策も、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。また、春闘、秋闘を通して、組合員の雇用と生活を守る運動を進めて行きます。

日本をこれからも、安心して暮らせる社会にすることが、我々の使命であり、それを支えるのが全労済の共済だと思っています。

——本日はどうもありがとうございました。これからも私鉄総連の発展と、お二人の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

聞き手



全労済 調査役 渡邊 幸一

## 全労済事業推進担当

産別・広域推進一部  
事業推進一課 三田村 栄治



## 2016年度 第1回常任委員会

2016年10月21日(金)、12構成組織13名の出席により「2016年度第1回常任委員会」を全労済本部会館において開催しました。

### 報告内容

#### ●「全労済中央推進会議」

##### 役員選出委員会「報告について」

① 2015年度第1回役員選出委員会  
中央推進会議議長である野中孝泰氏(電機連合・前書記長・現中央執行委員長)より議長退任の申し出がされ、後任の議長選出のため「全労済中央推進会議 2015年度第1回役員選出委員会」(2016年7月20日)が開催されました。後任の議長として、神保政史氏(電機連合・書記長)を選出・承認した旨の報告がされました。**〔表1〕**

② 2016年度第1回役員選出委員会  
中央推進会議副議長である吉岡正親氏(基幹労連・前中央副執行委員長)より副議長退任の申し出がされ、後任の副議長選出のため「全労済中央推進会議 2016年度第1回役員選出委員会」(2016年10月11

日)が開催されました。後任の副議長として、操谷孝一氏(基幹労連・中央副執行委員長)を選出・承認した旨の報告がされました。**〔表1〕**

また、常任委員会委員長である永芳栄始氏(JEC連合・前会長)より委員長退任の申し出がされ、「全労済中央推進会議運営要綱」に基づき、後任の委員長として、酒向清氏(JEC連合・副会長)を選出・確認しました。**〔表2〕**

### 議事内容

#### ●「全労済中央推進会議 2016年度」

取り組み状況と具体的活動に向けて」  
災害時無保障者の解消に向けた火災

表1■全労済中央推進会議 議長・副議長

| 役職名 | 構成組織名 | 氏名    |
|-----|-------|-------|
| 議長  | 電機連合  | 神保 政史 |
| 副議長 | 基幹労連  | 操谷 孝一 |
| 副議長 | 私鉄総連  | 清水 昭男 |

※太字は変更となった議長・副議長 (敬称略・順不同)

表2■常任委員会 常任委員

| 役職名  | 構成組織名      | 氏名     |
|------|------------|--------|
| 委員長  | JEC連合      | 酒向 清   |
| 副委員長 | JAM        | 上野 啓治  |
| 副委員長 | UAゼンセン     | 大瀧 直之  |
| 常任委員 | 電機連合       | 岡本 昌史  |
|      | JAM        | 相羽 迅人  |
|      | 基幹労連       | 藤原 真之  |
|      | UAゼンセン     | 飛田 洋一  |
|      | 私鉄総連       | 宮崎 功一  |
|      | JEC連合      | 宮腰 雅仁  |
|      | 自治労都市交評    | 栗原 勝   |
|      | 交通労連       | 貫 正和   |
|      | 全農林        | 渡邊 由一  |
|      | 自治労全国一般評議会 | 亀崎 安弘  |
|      | 全日本海員組合    | 竹内 崇   |
|      | 全建総連       | 西 雅史   |
|      | 運輸労連       | 福本 明彦  |
|      | ゴム連合       | 藤田 直治  |
|      | 全駐労        | 清水 千代宣 |
|      | 全国港湾       | 市川 康太郎 |
|      | 全電線        | 石井 直樹  |
|      | 印刷労連       | 矢戸 良太  |
|      | 新聞労連       | 高森 亮   |
|      | 建交労        | 神田 豊和  |
|      | サービス連合     | 森 啓記   |
|      | 自動車総連      | 舟橋 史洋  |
|      | 電力総連       | 今中 崇博  |

※太字は変更となった委員長・常任委員 (敬称略・順不同)

表3■全労済中央推進会議委員(2016年11月2日現在)

| 構成組織名    | 氏名    |
|----------|-------|
| 紙パ連合     | 佐藤 順一 |
| セラミックス連合 | 加藤 芳基 |
| 全印総連     | 谷村 年由 |
| 全司法      | 田中 年也 |
| 国税労組     | 矢澤 総士 |
| 全銀連合     | 小西 邦和 |

※変更となった中央推進会議委員のみ記載 (敬称略・順不同)  
※全造船機械は2016年9月10日の大会をもって解散されました

## 第73回中央推進会議

共済・自然災害共済の取り組みの展開について

2016年11月2日(水)、27構成組織31名の出席により「第73回中央推進会議」を全労済本部会館において開催しました。

### 全労済中央推進会議

2015年度・2016年度  
役員および委員について

●「全労済中央推進会議 役員選出委員会報告について」

6月(2017年5月)の取り組み計画について報告がされました。

### 議事内容

●全労済中央推進会議 2016年度  
取り組み状況と具体的活動に向けて  
災害時無保障者の解消に向けた火災  
共済・自然災害共済の取り組みの展開について

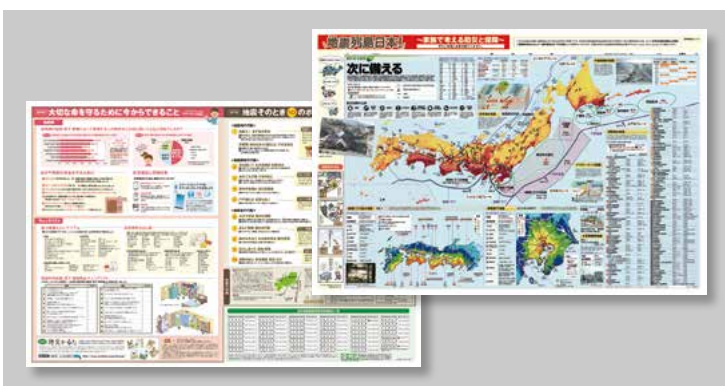
全労済中央推進会議「2016年度活動計画」にもとづくとともに、東日本大震災から5年半が経過し、平成28年熊本地震から半年が経過した

### 講演

#### 「共済の創設者」

賀川豊彦氏の基本思想を学ぶ」  
〔講師〕賀川記念館 参事 西 義人氏

共済の父と言われた賀川豊彦氏の軌跡をたどりながら、労働組合運動や労働者自主福祉運動の歴史を学び、理解を深めました。



“地震保障”の訴求・喚起を前面に打ち出した推進ツール



〔講演〕賀川記念館 参事 西 義人氏

ろうきんイメージモデル  
高梨 臨

安心金利のローンや  
便利で手数料いらずのATM。  
知れば知るほど、ろうきんって使える。  
ほかにもいいことありそう。  
休日も相談にのってくれるところがあるとか。  
こんど行ってみよう。

使える。  
ろうきん

あなたと  
わかちあう  
次の一歩

ろうきん



第73回中央推進会議



中央推進会議委員 矢戸 良太氏

●全労済中央推進会議「2016年度  
構成組織の実態調査および取り組み  
計画」について  
50構成組織のうち、45構成組織から「構成組織の実態調査および取り組み計画」が提出されました。取り組みの見える化および情報共有を目的として、各構成組織の実態調査を行ったうえで、2016年度(2016年



# 広域労組における 共済制度推進の実例

第26回

## 凸版印刷労働組合

1900年創業の日本印刷業界最大手の一つ凸版印刷株式会社。そのグループの組合員と家族の暮らしと福利厚生制度を守って活動する凸版印刷労働組合にお訪ねし、釣本利幸・中央執行委員長、佐藤正治・副中央執行委員長、佐藤久恒・中央書記長にお話を伺いました。

### 凸版印刷の歴史と 事業内容

——凸版印刷株式会社の事業内容をお聞かせください。

釣本委員長 ●凸版印刷株式会社は1900年創業の歴史ある企業で、今年で117年になります。昨年度の連結ベースで売上高が1兆4746億円、従業員数が4万6705人です（2016年3月末現在）。

近年、デジタル化、IT化で出版事業や紙媒体が縮小するなど印刷業界は厳しい環境に置かれています。その中で新たな成長分野を見つけて事業を展開し、「印刷テクノロジーで世界を変える」という提案型の営業を進めています。

事業内容については、大きな柱が

3つあります。情報コミュニケーション、生活産業、エレクトロニクスの各分野です。

例を挙げると、情報コミュニケーション分野は、従来の印刷イメージのチラシやカタログによるマーケティング事業。そして、セキュリティ部門で金融・証券関連のカードやビジネスフォーム。雑誌系コンテンツは電子書籍に置き換わりつつあり、BookLiveという電子書籍の関連会社を立ち上げています。また、全国の折り込みチラシを集めた「Shufoo!（シュフー）」というサイトを作りました。スマートフォン用アプリケーションで希望のチラシを配信する事業を行っています。

生活産業分野は、紙製飲料缶であるカートカンなど紙器パッケージ、優れたバリア性能を有したバリアファイ

ルムなど高機能フィルムを用いたフィルム関連製品などがあります。フードロスが社会的課題になっていますが、このバリアフィルムを用いて賞味期限を延ばすことでフードロスを防ぐことができます。また、建築材関連では床材、壁紙などのインテリア用木目印刷を行っています。

エレクトロニクス分野はディスプレイ関係である液晶のカラースタ、反射防止フィルム、タッチパネルなどです。また、半導体関連ではフォトマスクなどがあります。

### 凸版印刷労働組合の 歴史と成り立ち

——凸版印刷労働組合の歴史や成り立ちについて、ご紹介をお願いします。

それが様々な福利厚生制度を設けていましたが、それを統合したのが「トップパングループ福祉会」です。会社と組合員・従業員が同額の会費を拠出して運営しています。一方、労働組合独自の共済制度もまだ少し残っています。

組合員・従業員からすると制度があり過ぎて、実際に何かあったときにどれを使えばいいかわかりづらいという欠点がありました。そこで制度内容を一覧化した「福利厚生ガイドブック」をつくったのです。これを全組合員・従業員の自宅に郵送し、ご家族の方と一緒に見てもらうようにしました。

しかし、これだけ多くの制度があっても、企業内福利厚生制度では補い切れない部分があります。それを補完するのが全労済の共済制度であり、その中心を成すのが印刷労連「アシスト」です。印刷労連としてのスケールメリットを活かした大型保障で、年齢・性別にかかわらず同額の低廉な掛金で加入できるメリットがあります。

凸版印刷労働組合が「アシスト」の取り組みを始めたのは、今から20年ほど前のことです。当初は保障の見直し・切替えを希望するニーズが多かったのですが、何年か経つうちにそれほど増えなくなりました。特に若い層の新規加入が鈍り、現在の加入者が年々高齢化していくという状況が続きました。



中央執行委員長 釣本 利幸（つりもと としゆき）さん

戦後、各工場単位で労働組合が発足し、この時を結成と位置付けています。現在トップパングループ全10社で単一の労働組合を形成し、組合員は1万2000人強です。

労働組合の基本は地域・地区・職場であり、組織的には本部、その下に全国15支部36分会という組織体系がありますが、それとは別に各社ごとにセンターをつくり、全体としてはマトリックスな組織体系になっています。

役員体制は専従者が14名（うち1名を印刷労連に派遣）。中央執行委員は全国に34名（専従者を含む）で、組合員数に応じて配置しています。支部執行委員は74名、支部委員（職場

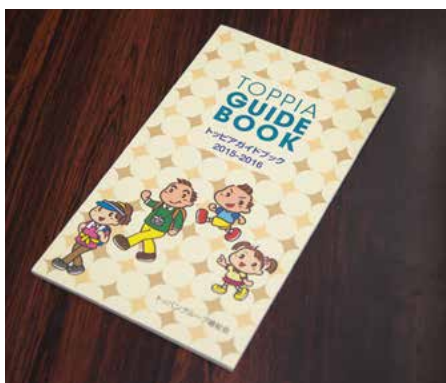
### 労働者福祉活動について

——共済「アシスト」の取り組みについてお聞かせ願えますか。

佐藤書記長 ●会社と労働組合は、それ



トップパングループ福祉会ガイドブック



トップパングループ福祉会ガイドブック

その結果、加入者の口数平均年齢が上昇し、2016年度の募集から掛金を見直さざるを得なくなりました。今後も「アシスト」を低廉な掛金で制度運営していくためには、何と云っても若年層の加入促進が急務と考えています。



東京・秋葉原駅にほど近い、「凸版印刷労働組合」が入る、凸版印刷本社ビル







事務所風景

声掛けをするなど気を配りました。これで新人と先輩の距離が近づくといいなと思います。初の試みだったため、今後繰り返し実施して成果を見極める予定です。

**釣本委員長** ● 新入組合員の歓迎会は、毎年各支部の青年委員がすべて企画・実施をしています。新人の組合員には、労働組合の存在価値や意義が見えにくくなっています。そんな中で、年齢の近い組合員同士が親しくなり、困りごとがあったらお互いに



中央書記長 佐藤 久恒(さとう ひさつね)さん



印刷労連「アシスト」

**新入組合員に対する取り組み**

—— 新入組合員向けの「フレッシュャーズプラン」についてはいかがですか。

**佐藤副委員長** ● 毎年、新入社員の入社時に、労働組合も新入組合員説明会を実施しています。「労働組合とは

何か」に始まり、福利厚生制度について話をしています。その中では「アシスト」や、新入組合員向けの新しい取り組みである「フレッシュャーズプラン」も紹介しています。

「フレッシュャーズプラン」は非常によいパッケージプランなのですが、その展開には大きなハードルが1つあります。それは「アシスト」への加入は自分の意思でできますが、新団体年金共済だけは未成年の場合、親の同意が必要だということです。

これまでご両親のことはそれほど念頭にありませんでしたが、労働組合の活動を理解してもらうよい機会と捉え、お手紙を送ることにしました。そうすることで「フレッシュャーズプラン」へのご理解をいただくとともに、労働組合への信頼が生まれ、安心してわが子を任せられ、何か困りごとが起きたら、「労働組合があるんだから相談すればいいじゃないか」と言ってもらえるかもしれないと考えたわけです。

この「お手紙作戦」は、最初はTCP支部で実施しました。その後全体の会議で紹介したので、今後は他の支部にも広がっていくと思います。

**佐藤書記長** ● 地方から来て独り暮らしをしている新入組合員の親御さんは、こういう手紙を見て安心するのではないかと思います。

**佐藤副委員長** ● 今回初めてこの「作

気軽に相談できる関係を是非作って置いてほしいと願っています。

職場環境や福利厚生など、職場には様々な課題がありますが、それを労働組合が率先して取り上げ、解決していく。これも労働組合の重要な活動ではないかと思っています。

## 全労済に望むもの

—— 全労済への要望をお聞かせください。

**佐藤書記長** ● 日常的なことは、各支部の書記局と全労済県本部の各支所担当の方とで対応してくれていると思います。それにはそれぞれの県や支所の考え方ややり方があるでしょう。しかし、「アシスト」の募集や新入組合員の加入時期は、15支部分会が一斉に取り組むことで、もともと加入率を上げられるのではないのでしょうか。その大事なときに、残念ながら支所間で取り組みに温度差もあると思っています。我々側の問題もありますが、そこを全労済と協力して何とかしていきたいものです。

また、本部主体で全国一斉に取り組むもののほかに、支部主体で日常的な共済制度の紹介や、相談窓口を設置して組合員密着型の推進を行う場合があります。この2つの取り組み



副中央執行委員長 佐藤 正治(さとう まさはる)さん

戦“を実施して、かつてないほど多勢の新入組合員の加入がありました。特に寮に入っている組合員には、家財に火災・自然災害保障を付ける重要性を説明したので、その成果もあつたと思います。

また、新入組合員説明会とは別に、「フレッシュャーズプラン」に特化して説明する機会も設けました。職場の支部委員や青年委員など新入組合員の先輩に声をかけて、「新人たちと一緒に話を聞いてやってください」という案内をしました。

これには2つ狙いがあります。1つは自分の身近な先輩が誰かを、新入組合員に知ってもらうこと。もう1つは、先輩でまだ「アシスト」などに加入していない場合には、先輩自ら加入して、後輩の新人に対して模範を示してもらおうという意図です。

説明会では両者を取り持つように

み手法をうまく連携させながらやっていけば、より裾野が広く細かな組合員へのケアができるのではないかと思います。

さらに、我々の内部で取り組む推進や新しい試みに、全労済からも協力していただければありがたいと思っています。

**釣本委員長** ● 1995年の阪神淡路大震災の時、私は凸版印刷労働組合大阪支部の書記長でした。その頃はまだ自然災害共済がなく、火災共済しかなかった時代でした。地震なので当然火災共済から共済金は出ないのですが、そのときの全労済の対応が非常にありがたかったことを今でも覚えています。

それは、全労済が被災者救援のため、「見舞金」を支給したこと。それもお見舞金にしては非常に素晴らしい内容の対応をしていた。この対応が、被災された組合員の皆さんにとっても喜ばれたことが、強く記憶に残っています。

昨今、日本各地で様々な自然災害が起こっています。全労済はこれまで働く者の立場から、様々な取り組みを行ってきました。今年創立60周年を迎えると聞いていますが、これからも被災者や困っている方々に対して、全労済の基本理念である相互扶助の精神を忘れることなく、組合員のためにさらに発展していったら



全労済事業推進担当  
産別・広域推進一部 事業推進二課  
**石橋 寛士**

凸版印刷労働組合のスローガンに『One to One』があります。～「人と人」「人から人へ」ともに未来へ～という意味が籠められています。全労済の理念には「みんなでたすけあい～」という言葉があります。凸版印刷労働組合の執行部の方々は、これらの言葉を実践されています。私も同じ執行部の一員としての気持ちで、引き続き共済活動を通じてこれらの言葉を共に実践していきたいと考えています。



全労済 調査役 **渡邊 幸一**

聞き手

しいと思います。

—— 本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。



フレッシュャーズプラン申込書



新入組合員向けパンフレット「新生活のココロエ」



# ファイナンシャル・プランニング講座

## 地震保障を極めよう



生活経済研究所長野 事務局長  
CFP®認定者 塚原 哲  
生活経済研究所長野 事務局長、投資助言・代理業  
登録番号 関東財務局長(金商)第629号

1998年精密機器メーカーの労働組合役員に就任、2001年に労働組合専門のシンクタンク「生活経済研究所長野」を設立、2006年日本FP協会長野支部・支部長、2012年関東ブロック副ブロック長を歴任、2014年7月から日本FP協会評議員に就任。全国で労働組合関連団体のライフサポート活動の立ち上げに従事。

近年、自然災害の発生頻度が高くなっていますが、今回は地震保障について共済と保険の特性の違いも踏まえて掘り下げてみましょう。まず、建物を再建する際にかかる再取得価額の算出方法には、「**年次別指数法**」と「**新築費単価法**」の2種類があります。

### 1 年次別指数法は物価を配慮

**年次別指数法**は主に損保各社が採用している基本的な方法で、①新築当時の建築価額<sup>1</sup>に、②建築年ごとに定められた指数を掛けて算出します。

例えば、①新築(1985年)当時の建築価額が3,500万円、②1985年の木造建物(H構造)の年次別指数が1.14の場合、再調達価額は3,500万円×1.14＝3,990万円となります。

要は、「新築当時は3,500万円建てたけれども、今の物価は当時より14%上昇しているので3,990万円は必要」とみなしているわけです。新築建物であれば年次別指数は常に1.00、すなわち建築費そのものになります。

### 2 新築費単価法は3要素で算出

**新築費単価法**は主に共済団体が採用している簡便法で、全労済の住まいる共済(新火災共済・新自然災害共済)でも採用されています。①所在地、②床面積、③建物構造により建物の再取得価額が算出されます。

例えば、①東京都、②45坪、③木造の場合、全労済は3,600万円、鉄骨・耐火構造の場合、全労済は

約金額は**実際の建築価額**なので、それぞれ5,000万円、1,500万円が基本となりますが、地震保険の加入限度は50%までなので、それぞれ2,500万円、750万円となります。<sup>2</sup>

表1 年次別指数法と新築費単価法

| 火災保障               | 年次別指数法<br>(損保各社等) | 新築費単価法<br>(全労済)    |
|--------------------|-------------------|--------------------|
| 高級住宅<br>5,000万円    | 5,000万円           | 3,600万円            |
| ローコスト住宅<br>1,500万円 | 1,500万円           |                    |
| ↓50%               |                   | ↓30%               |
| 地震保障               | 地震保険              | 新自然災害共済            |
| 高級住宅<br>5,000万円    | 2,500万円           | 1,080万円<br>↑上回っている |
| ローコスト住宅<br>1,500万円 | 750万円             |                    |

※新築の場合。また、単価調整を考慮していません。

表2 全労済:ローコスト住宅(1,500万円)の場合

①所在地:東京都  
②床面積:45坪  
③建物構造  
木造(H) 3,600万円  
鉄骨・耐火(T) 4,000万円

| 建物のみ      | 建物保障    |
|-----------|---------|
| 火災保障      | 3,600万円 |
| 地震保障(30%) | 1,080万円 |

①実際の価額の72%  
②家財も入っておく

| 建物&家財     | 建物保障    | 家財保障    |
|-----------|---------|---------|
| 火災保障      | 3,600万円 | 1,500万円 |
| 地震保障(30%) | 1,080万円 | 450万円   |

④地震保障の合計が1,530万円に  
③地震保障を増額できる

一方、共済団体は新築費単価法なので、①所在地、②床面積、③建物構造が同じなら、再取得価額も全て同じです。例えば、全労済であれば、5,000万円の建物は3,600万円までしか加入できない一方で、1,500万円の建物でも3,600万円まで加入できる制度です。

全労済の地震保障は最大で火災保障の契約金額の30%・新自然災害共済(大型タイプ)までしか加入できず、地震保険の50%より見劣りするよう思われがちですが、先の1,500万円の建物について掘り下げると面白いことが分かります。①火災契約金額3,600万円×30%＝1,080万円、すなわち実際の建築価額の72%相当まで地震保障に加入できる計算です。これは年次別指数法の750万円を上回っており、ローコストな住宅はこの割合は高まっています。<sup>(表1)</sup>

さらに、②家財に火災保障1,500万円<sup>3</sup>加入し、合わせて新自然災害共済にも加入すると、③地震保障が450万円(30%)まで増額されるので、④先ほどの1,080万円と450万円で合計1,530万円までカバーされます。<sup>(表2)</sup>

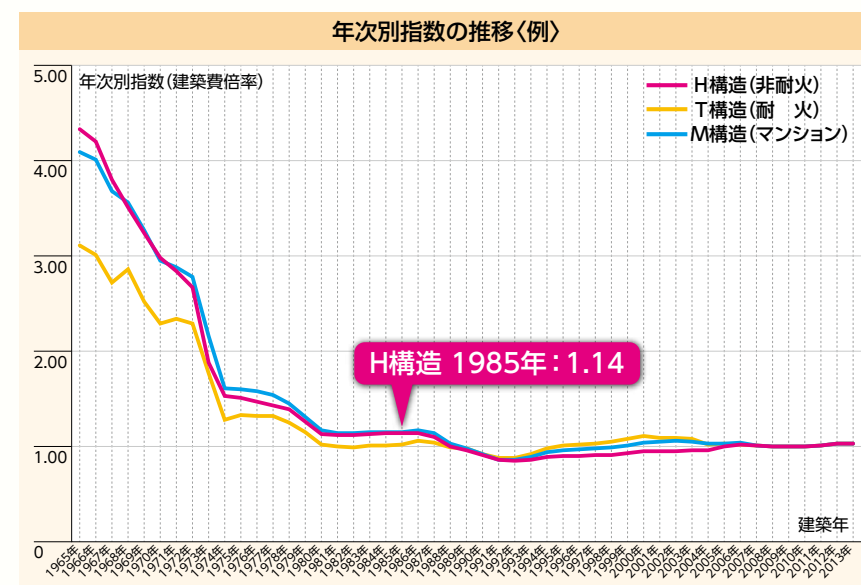
### 3 高級住宅には年次別指数法、ローコスト住宅には新築費単価法

これでわかるように、共済の加入基準を大きく超える高級住宅ほど損保の方が、加入基準を下回るローコスト住宅ほど全労済の方が、保障額から見た地震対策として有効になるという特性です。

4,000万円です。ポイントは、新築費単価法で算出された再取得価額が**実際の建築費とは関係がない**という点です。

さて、場所、広さ、構造が同じ家を新築するとしても建築価額は千差万別です。例えば、東京都、床面積45坪、木造であっても、5,000万円の高級住宅もあれば、1,500万円のローコスト住宅もあります。

年次別指数法を採用する損保の場合、火災保険の契



これらはどちらの方が優れている算出方法か、という話ではありません。むしろ、なぜ共済団体が新築費単価法を採用しているか、その根源的な話にも触れておきましょう。これは「共済」と「保険」の差異でもあります。

「保険」は誰でも契約できる商品であるのに対し、「共済」は組合員(仲間)でなければ加入ができないクローズドの制度です。つまり、共済は組合員の母集団の特性にあわせられるわけで、高額住宅に合わせた共済も、ローコスト住宅に合わせた共済も設計できます。現在の全労済の住まいる共済は、後者の制度設計ですので、その特徴も理解しておくといでしょう。

### 4 誰から入るのが大切

組合員は制度に詳しい人ばかりではありません。保障は加入している契約内容に誤解や誤認のない状況を確認しなければなりません。一番よくないのは「自分は支払いを受けられると思っていたら受け取れなかった」という状況で、まずは「よくわからないけれど、加入したので支払いを受けられた」という形で護つてあげるしかありません。したがって、詳しくない組合員には新火災共済+新自然災害共済をお勧めし、詳しい組合員が自分でよく制度を理解し、「風水害や地震保障は不要」と判断した時にだけ、新自然災害共済を外すという形が望ましいのです。

その意味で、保障は誰から入るのがとても大切です。その中で、労働組合の執行部・書記局の皆さんの使命も強く意識したいものです。

2: 単価調整という方法で30%まで保障を増やせる場合は、3,250万円、975万円まで 3: 4人家族(世帯主35歳)

1: 工事請負契約書に記載されている金額



## 応募方法

編集部では皆さまのご意見やご要望を反映し、誌面の充実を図るため、読者アンケートを実施しています。ご応募いただいた方の中から抽選で10名様に「図書カード(1,000円分)」をプレゼントいたします。たくさんのご応募をお待ちしています。

- クイズとアンケートにお答えいただき、FAXで「zenrosai編集部宛」まで送信してください〔2017年2月28日必着〕。
- 「WEB-ZENROSAi」からもご応募いただけます。
- 当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
- このページをコピーしたものを、FAXしていただいても構いません。

- FAX番号 ▶ 03-5351-7328
- WEB-ZENROSAiアドレス ▶ <http://www.zenrosai.coop/web-zenrosai>

**クイズ** □の中に数字をお書きください。

全労済は今年9月29日に創立□□年を迎えます。

**Q1 WEB版「WEB-ZENROSAi」をご覧になりましたか?** (□に✓印をつけてください)

☐見た ☐まだ見ていない ☐身近にインターネットの環境がない

**Q2 WEB版「WEB-ZENROSAi」について、どう思われますか。〈複数回答可〉** (□に✓印をつけてください)

☐多くの人が見ることができて良いと思う ☐リアルタイムや双方向の情報発信に期待する  
☐便利な機能を充実させて欲しい ☐情報の流出などが心配 ☐見ることができないので関係ない

**Q3 〈WEB版について〉冊子版と比べてのご感想をお聞かせください。〈複数回答可〉** (□に✓印をつけてください)

☐パソコンから利用できて便利 ☐便利な機能がたくさんあって良い ☐デザインが良い  
☐使い勝手が良くない ☐アクセスしにくい ☐見ていないので分からない  
☐冊子の方が利用しやすい ☐その他( )

**Q4 今号の記事の中で興味を持たれた記事はありますか?〈複数回答可〉** (□に✓印をつけてください)

☐巻頭特別インタビュー ☐中央推進会議 新議長に聞く ☐産別インタビュー ☐全労済中央推進会議NEWS  
☐広域労組における共済制度推進の実例 ☐ファイナンシャル・プランニング講座  
☐訪問先のご近所グルメ ☐特になし

**Q5 〈冊子版について〉内容についての総合的な満足度はどの程度ですか?** (□に✓印をつけてください)

☐満 足 ☐やや満足 ☐普 通 ☐やや不満 ☐不 満

**Q6 上記「Q5」の理由や、その他ご意見があればご記入ください。**

|      |     |            |
|------|-----|------------|
| フリガナ | 団体名 | 〒          |
| お名前※ |     | 住所※        |
|      |     | 電話番号 ( ) - |

※は必須項目です。必ずご記入ください。 ●個人情報の取り扱いについて:ご記入いただいた個人情報については、プレゼントの発送以外の目的には使用いたしません。

**FAX送信先** 機関誌「zenrosai」編集部(全労済 産別・広域推進一部 推進企画課) **FAX03-5351-7328** (番号のお間違いにご注意ください。)

全労済の推進担当が、協力団体からご紹介いただいた名店・隠れた穴場をレポートします。

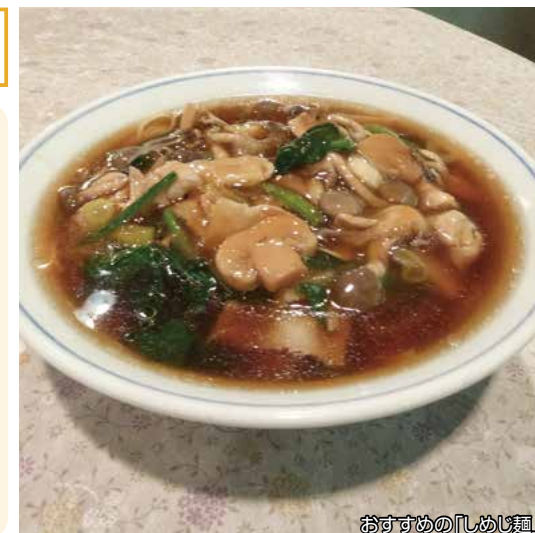
東京・芝 中国餐館 **生駒軒**

私が  
オススメ  
します!

全労済 産別・広域推進一部 事業推進一課

**吉兼 俊輔**

全国交通運輸労働組合総連合(交通労連)よりご紹介いただきました。芝公園駅からほど近いお店です。おすすめは「しめじ麺」。大きめにカットされたしめじと各種野菜にとろみをつけた「あん」が、醤油ラーメンにかけてあります。しめじの風味がスープと相性が良く、「あん」が「麺」と絡み合いとても美味しいです。流通量が少ない「平茸」を使用しており、提供されない日も。また、「麻婆豆腐」は甘さ控えめの自家製甜麺醤を使用。普通の麻婆豆腐よりとろみが強く、ご飯との相性も抜群です。「しめじ麺」も「麻婆豆腐」も季節を問わず食べたい一品です。ぜひ一度ご賞味ください。



おすすめの「しめじ麺」



お店と店主



おすすめの「麻婆豆腐」



☎03-3451-4318  
 都営三田線「芝公園」駅 徒歩2分  
 都営三田線「三田」駅 徒歩6分  
 〒101-0052 東京都港区芝2-8-10  
 〔営業時間〕ラン チ●11:00~14:00  
 ディナー●17:30~21:30  
 〔定休日〕土・日・祝日

名古屋・熱田 焼肉 **美奈登**(みなと)

私が  
オススメ  
します!

全労済 産別・広域推進三部 事業推進課

**板倉 充典**

セラミックス産業労働組合連合会よりご紹介いただきました。事務所からすぐの、住宅街に突然現れるレトロな外観のお店です。食欲をそそる赤い「とんちゃん」の暖簾をくぐって、昭和感と肉を焼く煙がふれる店内へ。七輪と炭の組み合わせで、本格的なローストができるのが特徴です。人気メニューのホルモンやカルビ、ロースなどもいただきましたが、今回は特にサガリ(牛の横隔膜)が美味しかったです。タレは名古屋ならではの味噌ベースに、このお店で50年来となる秘伝の材料が加わって、肉に良く合う! 味はもちろん、お値段もリーズナブルで、ぜひおすすめしたいお店です。



おすすめの「サガリ」



お店の外観



七輪と炭で本格ロースト



☎052-872-2022  
 JR東海道本線「熱田」駅 徒歩17分  
 名鉄名古屋本線「神宮前」駅 徒歩16分  
 〒467-0879 愛知県名古屋瑞穂区平郷町2-6  
 〔営業時間〕16:30頃~22:00  
 〔定休日〕月曜日・第3火曜日



“ご家族皆さまで楽しんでいただける”



# 全労済文化フェスティバル2017

「次代を担う子どもたちとご家族に、  
良質な文化芸術に触れ豊かな心を育てていただきたい」…  
そんな願いを託し厳選した作品です。

会場 ■ 全労済ホール／スペース・ゼロ

各公演の詳細は、組合員特典ページをご覧ください。  
<https://www.zenrosai.coop/ss/member2/index.php>

トム・プロジェクトプロデュース

## 萩咲く頃に

3月21日(火) 14:00～  
3月22日(水) 19:00～  
3月23日(木) 14:00～  
3月24日(金) 19:00～  
3月25日(土) 14:00～  
3月26日(日) 14:00～

料金(消費税込) 全席指定

■一般前売 4,500円  
■一般当日 5,000円

★U-25(25歳以下) 2,000円  
★シニア(60歳以上) 4,000円

※未就学児入場不可



●作・演出  
ふたくちつよし

●出演  
音無美紀子  
藤澤志帆  
森川由樹  
西尾友樹  
大和田獏

※上演時間  
約2時間  
休憩なし

U-25・シニア券はトム・プロジェクトのみで販売。  
要身分証明書。販売当日とにも同料金。

親子のための  
クラシックコンサート



3月29日(水) 14:00

料金(消費税込) 全席自由

■一般2,000円  
■子ども1,000円(3歳～小学生)  
■親子券2,500円  
(大人1名・子ども1名)

※3歳未満のお子さまでも席が必要な場合はチケットが必要です。



出演○ズーラシアンプラス+弦うさぎ

うたって!おどって!つくって!えいごで!あそぼう!!

## わくわく! ファミリーステージ

4月1日(土) 11:30/15:00  
4月2日(日) 11:30/15:00

料金(消費税込) 全席自由

■一般 2,000円  
■子ども 1,000円(3歳～小学生)  
■親子券 2,500円(大人1名・子ども1名)

※3歳未満のお子さまでも  
席が必要な場合はチケットが必要です。



出演

●構成・演出  
加藤宗弘

Zero Projectプロデュース2017

## ミュージカル 雪のプリンセス

4月5日(水) 19:00  
4月6日(木) 19:00  
4月7日(金) 14:00/19:00  
4月8日(土) 12:00/17:00  
4月9日(日) 12:00/17:00

料金(消費税込) 全席指定

SS席 — 8,500円(特典付)  
S席 — 6,800円  
こども — 4,800円(3歳～12歳)

※3歳未満の入場は原則としてご遠慮願います。



全労済文化フェスティバル2016上演写真

●脚本: 高橋知伽江  
●演出: 大杉 良  
●作曲・音楽監督: 片野真吾  
●出演: 高橋朱里(AKB48)  
酒井 蘭  
崎 理人  
小笠原 健  
津田英佑  
夏樹陽子  
峰 さお理 ほか

## オペラ タング〜まほうをかけられた舌〜 +うたのステージ

\*同演目ダブルキャスト(A・B組)

4月12日(水) 19:00(A組)  
4月13日(木) 19:00(B組)  
4月14日(金) 15:00(A組)/19:00(B組)  
4月15日(土) 13:00(B組)/17:00(A組)  
4月16日(日) 11:00(A組)/15:00(B組)



●原作: 安房直子(岩崎書店刊)  
●台本: 朝比奈尚行  
●演出: 大石哲史  
●出演: オペラシアターこんにゃく座  
井口真由子(pf)/湯田亜希(pf)

料金(消費税込)  
全席指定

\*当日は500円/席増  
\*子どもは  
小学校6年生まで

■おとな — 5,000円(当日 5,500円)  
■おとなペア(2席) — 9,000円(当日 10,000円)  
■U25(25歳以下) — 3,000円(当日 3,500円)  
■学生・こども — 2,000円(当日 2,500円)  
■おとなこどもペア(2席) — 6,500円(当日 7,500円)

**ご招待** 各作品に**50組100名様**をご招待いたします

**応募方法** ①全労済ホームページ組合員特典ページから

<https://www.zenrosai.coop/ss/member2/index.php>

②往復はがき 住所・氏名(ふりがな)・電話番号・希望公演名と希望日時(往復はがき1通につき1公演2名様まで)を明記のうえ、右記事務局「Z招待係」宛にお送りください。

**応募締切** 2017年2月15日(水) (ホームページの場合は当日発信有効、はがきの場合は当日消印有効)

**当選発表** 2017年2月25日頃、ホームページの場合はeメール、往復はがきの場合は返信はがきにてご連絡いたします。

**ご優待** チケット料金の**20%引き**にて販売いたします

**申込方法** ①全労済ホームページの組合員特典ページから

<https://www.zenrosai.coop/ss/member2/index.php>

②はがき 住所・氏名(ふりがな)・電話番号・公演名・日時・枚数を明記のうえ、右記事務局「Z優待係」宛にお送りください。折り返し、事務局より代金のお支払やチケット受取方法の説明書などをご郵送いたします。

**申込締切** はがきでの申込みはご観劇希望日の14日前までにお申込ください。

※本企画で取得した個人情報については、本企画に関連する業務に限ってのみ使用いたします。

**お申し込み・お問い合わせ**

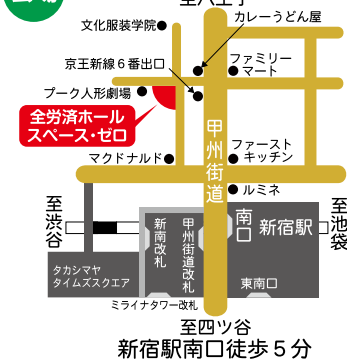
主催 ● 全労済

TEL.03-3375-8741 (平日10:00～17:00)

全労済文化フェスティバル事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-12-10  
全労済会館B1

会場



組合員の皆さまへの  
お得な特典情報

Vol.96 JAN 2017

発行人 中世古 廣司  
編集責任者 阿部田 克美

発行所

全労済(全国労働者共済生活協同組合連合会)  
〒151-8571 東京都渋谷区代々木2-12-10 TEL.03-3299-0161(代表)